

# 月刊 やちまなこ

2011.7.15 発行

No. 164

## 7 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



日の出前の湿原は霧に包まれ、息も白くなるほど空気は冷たい。夏鳥たちの鳴き声が辺りから聞こえ、時折聞こえるタンチョウの鳴き声の先のハンノキの群落は、まるで巨人たちが歩く姿のように見えた。

木の葉に輝く水滴は揺れるたび次々と転げ落ち、濡れて一段と鮮やかな花々が放つ香りが鼻に残る。



# コッタロ川と湿原のほとりから

## 133 7月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

七夕祭は晴天に恵まれ、五色ならぬ十二色の短冊が翻る夏らしい一日となり、7月9日、初の『真夏日』で32℃を記録しました。

コッタロに低温と日照不足をもたらすオホーツク高気圧に脅かされた6月からようやく抜け出した今、遅い夏の訪れを実感しております。庭先では生い茂る草花の中にあって一際目に鮮やかなハマナスの妙なる花の香と、トリアシ升麻が独特の白い小粒の花を咲きほころばせているではありませんか。一方湿原も山も一段と濃縮された緑の中で、巣立ちを終えた野鳥の子供達が、活気に満ちた黄色い声を響かせており、ベビーラッシュ酣と云った風景です。

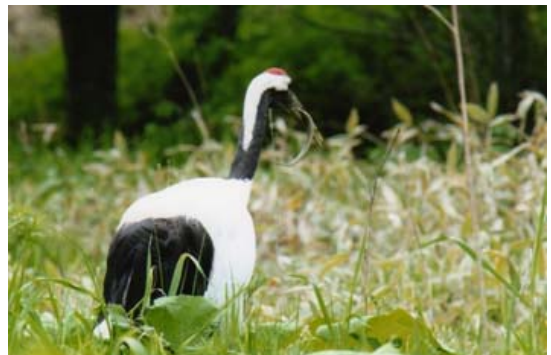


特筆すべきはハシブトガラ営巣状況で、川面にせり出した柳の枯木にキツツキが開けた直径2cmばかりの穴から、ヒナの糞をくわえて出て来た♀(写真左上)と、よく肥えて旨そうな柳虫をこれから巣に運び入れようと待機している♂(写真左下)の極めて稀なる“good timing”.ここに暮らすこと16年目にして初の珍写と云えるでしょう。



ところで食欲、好奇心、共に旺盛な丹頂の幼鳥等は本日(10日)で孵化後丁度3ヶ月目を迎え背高も親鳥とほぼ同等でそろそろ飛びたくております。そんなある日、子育てに疲れていたのか雀の親鳥の一瞬の間隙をついて丹頂♀がツルハシでとらえたのを、すかさずかつさらって丸のみしたり(写真下左)、またある時は脱皮寸前の蛇の成獣を必死の形相で格闘の末つかまえた♂親が切り分けられず結局一人占めしたのを横目に、がっかりし乍らも生きる術を覚える子供達を見守り続けており、この一連の珍写も雀と蛇に陳謝しつつ撮影したことをつけ加えておきます。

さて、日が傾きかけると、水辺の多い我家ではカエルのコーラスが遠く近く押し寄せる波の如くで、夕立ちでも来ようものなら一層迫力を増して大合唱となり、トニー・ベネットの音楽と共に心地好い眠りの森の奥へと誘われるこの頃です。



## 湿原の住人たち その124

## ハクセキレイ

来館者から「体の色が白と黒と灰色で、尾羽を上下にふって歩いている鳥は何ですか？」と名前を聞かれることがあるハクセキレイは、街中でも見かける身近な野鳥のひとつです。あるこっと周辺には顔周りのモノトーンの配色が微妙に違うセグロセキレイも飛来するので図鑑で確認してもらいます。湖岸の砂浜を歩いたり湖の浅瀬で水浴びをしたり、たえず動いている印象の鳥ですが、陽射しの強い日の昼下がり、塘路湖に面したペランダの日陰で休むハクセキレイのこどもがいました（写真）。暑い日は鳥も日陰で涼みたくなるのでしょうか。

いろいろな野鳥の巣立ちしたヒナが見られる時期になりました。見慣れた鳥でも、成鳥とこどもの違いを比較したり、何をしているのか想像しながら観察すると面白いですよ。



### 看板ウォッチング

観光シーズン真っ盛り。車を走らせていて目にとまった看板を撮ってみました。見覚えのある人はいるでしょうか？

野生動物との遭遇が多い北海道では、「熊出没注意」の看板をはじめ「タンチョウ横断注意」、シカと車の衝突の絵が描かれた衝突事故防止の注意をうながすもの、ほかにも野生ではありませんが「牛横断注意」など、北海道ならではのものがあります。

写真の看板は丹頂が沢山いる鶴居村に設置してありました。標茶町でも、国道を含め車道を歩く丹頂に冷や冷やすることがあります。広い釧路湿原の観光は、時間にゆとりをもって、地球にやさしい運転をお願いします。

## つぼっちの塘路周辺うろうろ（製作）日記 Vol.57「先生は縄文人？」

7月16日にあるこっで行う「縄文土器作り」。その材料となる粘土作りを行いました。土器製作用の粘土は市販されているのですが、今回は、塘路で実施した遺跡発掘の時に採集した粘土を使って土器作りを行う事にしました。とはいえ取ったばかりの粘土には砂や土などの不純物が多く含まれています。そこで粘土を水で溶かし沈殿させ、堆積した上部分の（上の部分には細かい粒子が堆積し、質の良い粘土となります）を取るという地味な作業を繰り返しました。この方法は陶芸などで使われる技法で水簸（すいひ）と呼ばれます。何度か繰り返し、土器製作に使える状態の粘土が出来ました。

塘路に住んでいた縄文人も、取り立ての粘土では縄文土器は作れなかったはず。塘路での発掘調査で見つかった土器からは、製作時に粘土へ砂や植物を混ぜたりした跡が見られました。縄文人は粘土の扱いに精通していたはず。古代ではどのようにして粘土を生成したのか？興味深いところです。 坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）



# 7・8月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

## どんぐりカレンダーを作ろう

[日時]8/6(土) 10:00～12:00

[定員・材料費]8名・300円

[場所]塘路湖EMCレクチャールーム \*夏休みの工作におすすめです。

## バードカービング展 [日時]7/23(土)～8/21(日) [場所]塘路湖EMCレクチャールーム

\*2010年度バードカービング講座受講生と講師の作品展です。入場無料。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ お申し込み お問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで TEL 015-487-3003

## ホタルウィーク [日時]7/27(水)～31(日)19:00～20:30

## 夏の湿原花ハイク [日時]8/7(日)10:00～12:00

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ お申し込み お問い合わせは 温根内ビジターセンターまで TEL 0154-65-2323

## 塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(6/17)ヒメカイウ、カキツバタ、エゾスカシユリ、エゾカンゾウ、エゾキシタソウ、オオカサモチ、ヒトフサニワゼキショウ、クロミサンザシ、ミツバウツギ (6/25)コケイラン、ササバギンラン、アオチドリ、バイケイソウ、ホオノキ、アズキナシ、オオアマドコロ、ヤマブドウ (6/26)オニグルミ雌花、フタマタイチゲ、ミヤママタタビ、ツルウメモドキ (7/1)カラフトイバラ、フランスギク (7/2)ヒロハノマンテマ、エゾオオヤマハコベ、カンボク (7/3)ニセアカシア (7/10)キンミズヒキ、クサフジ、ホザキシモツケ、オニシモツケ、シベリアシオガマ、エゾノミズタデ、メマツヨイグサ、オオウバユリの蕾

【鳥】(6/17)コアカゲラ、タンチョウ、オオジュリン、カッコウ、ウグイス (6/24)アマツバメ (6/25)キジバト (7/2)キビタキ、オオルリ (7/11)オオハクチョウ、ハクセキレイ

【その他】(6/19)エゾタヌキ、キタキツネ (6/21)シロオビヒメヒカゲ、ベニシジミ (6/25)エゾイトトンボ、コサナエ、ヨツボシトンボ、カラスアゲハ、アカマルハナバチ (6/26)オオトラフトンボ、ミヤマカラスアゲハ、エゾシカ、ウチスズメ、ヒメシロモンドクガの幼虫 (7/1)エゾシマリス (7/2)サトキマダラヒカゲ、ホンサナエ (7/10)イチモンジチョウ、クロイトトンボ、エゾハルゼミ

## 夏期水曜開館のお知らせ

7月20日～8月17日までの毎週水曜日は**開館**します。みなさまのお越しをお待ちしています。

◆日出・日入時間 7/15(3:56, 19:00)、7/31(4:11, 18:46)、8/15(4:27, 18:26)



イチモンジチョウ(7/10 元村キャンプ場駐車場)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:[emc@hokkai.or.jp](mailto:emc@hokkai.or.jp)

開館時間 10:00～17:00 (11月～3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料